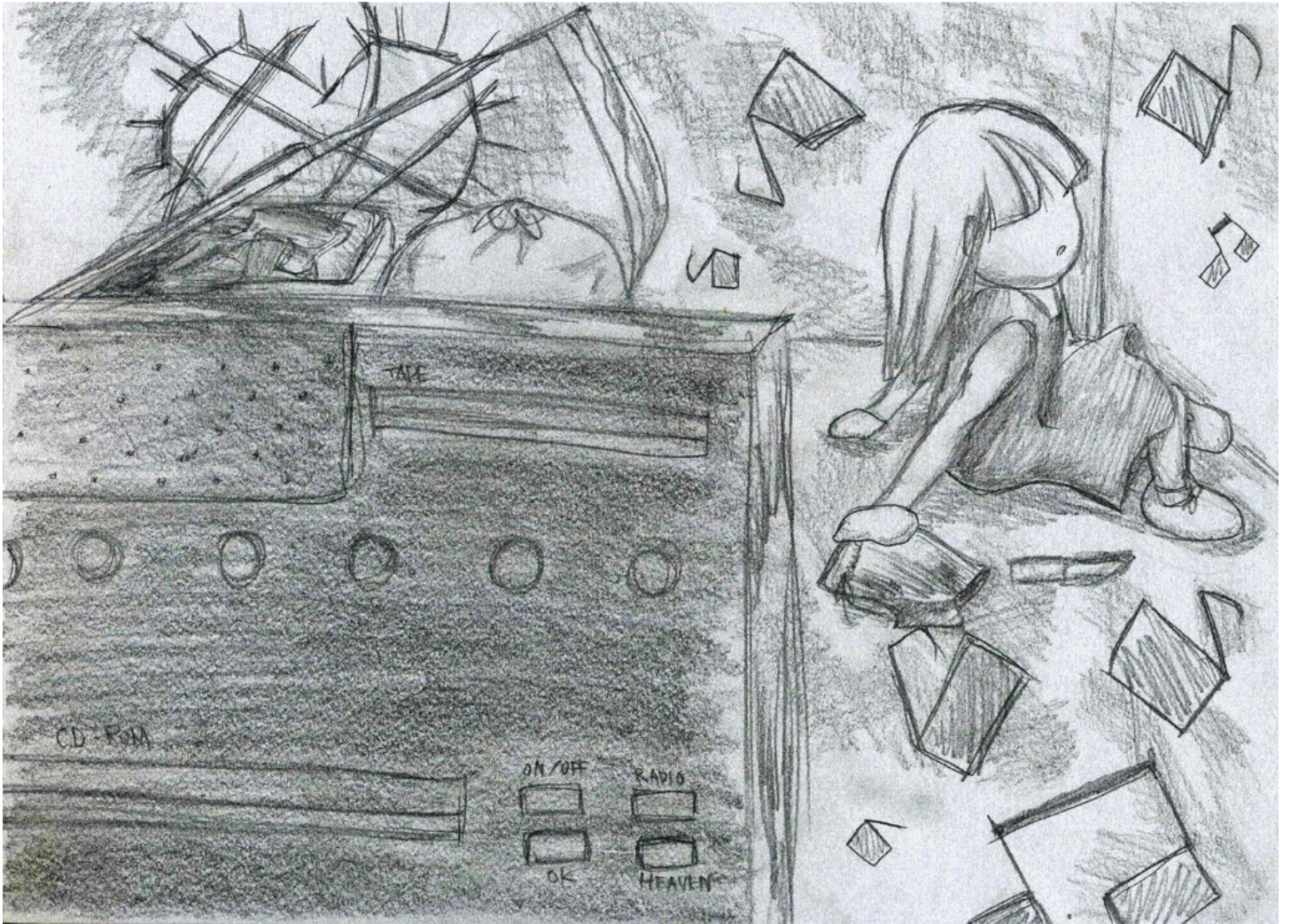
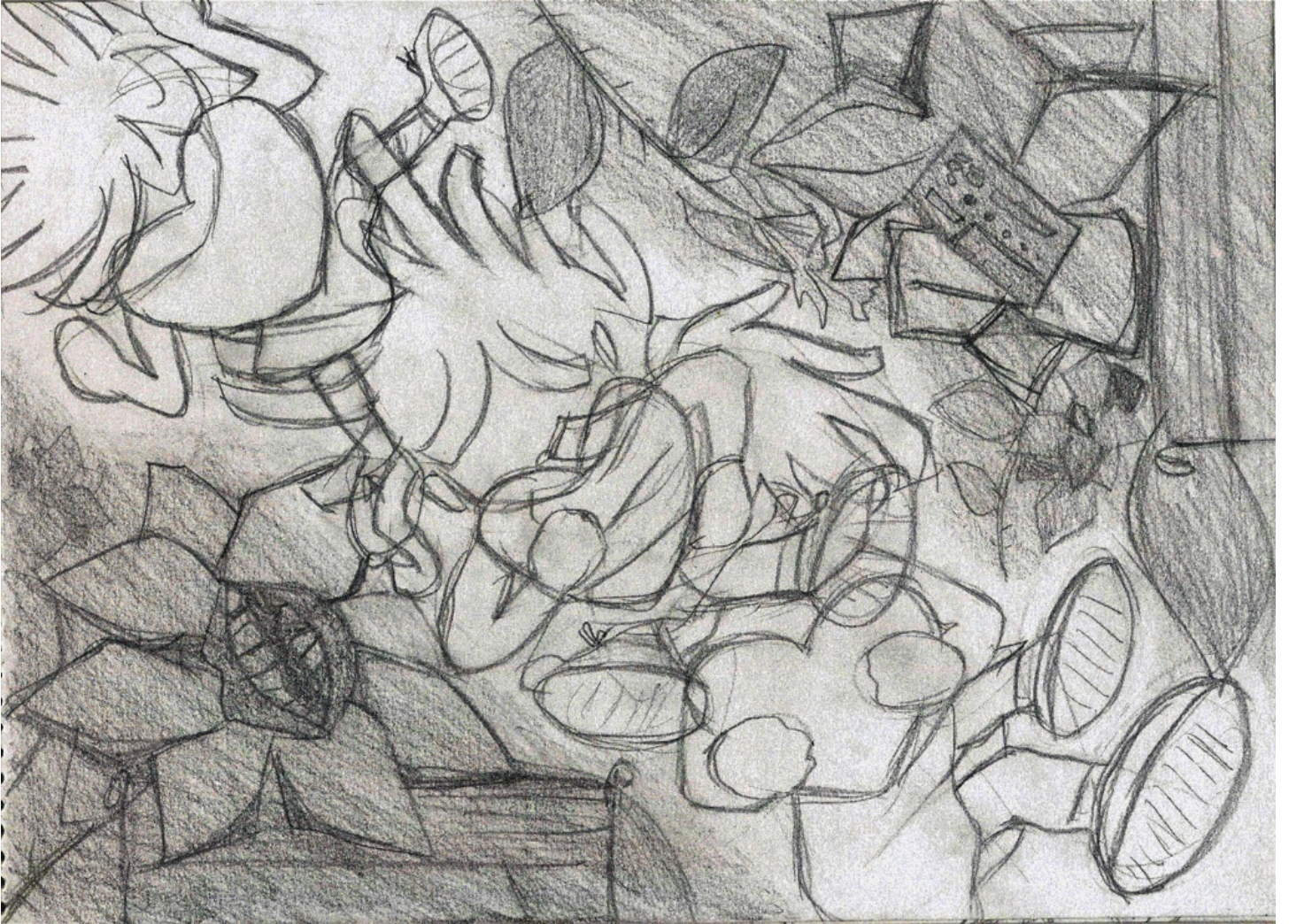


小さいころの私は、  
家族や友達にかこまれて、とても孤独だった。  
学校で何かの賞をもらった。  
うれしかったけど、水路に捨ててしまった。



体育の授業中、誰かとブランコの立ち乗りしてた。  
かなり叱られた。誰だったんだろう。  
中学生のころ、歌に出てくる「君」って誰だろうって思った。  
「君」と呼べる人が、誰もいなかった。

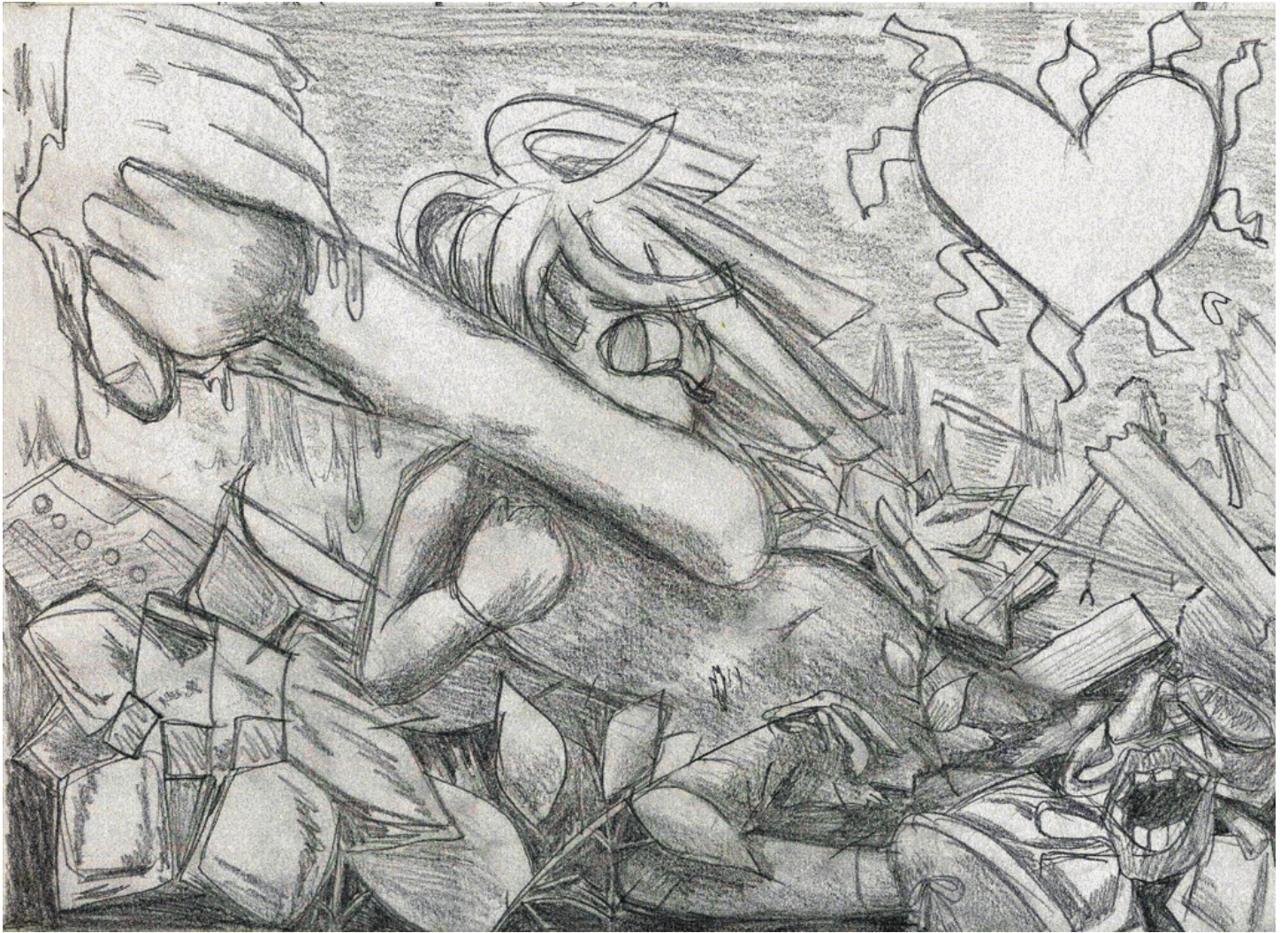


ずっと孤独だった。

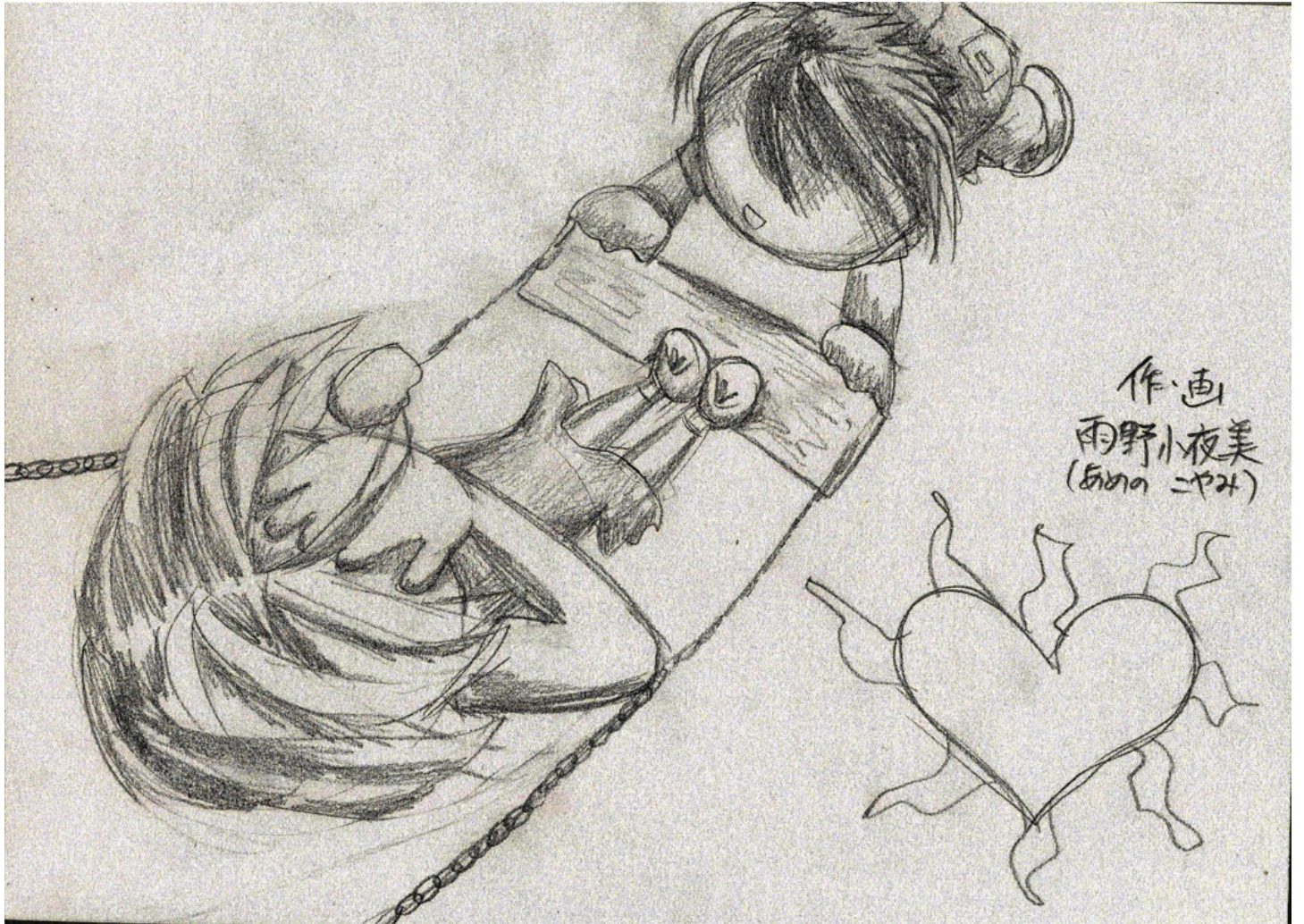
ずっと孤独だった。

君の笑顔を、届くけど届かないベンチで見ている。

飛んでくるバレーボール。思わず受けとめる。



笑顔は得意じゃないんだ。  
君が走ってくると青空のように笑えるんだ。  
ボールを君にわたす。かくれ涙が伝う。  
ちょっと昔話を思い出しただけ。なんて。



## バラード

<http://p.booklog.jp/book/110676>

著者：雨野 小夜美

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tinycolor/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110676>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/110676>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ